Monitoring Post
モニタリングポスト

PET サマーセミナー2025 in 白山 印象記

工藤　崇
Kudo Takashi

「PET サマーセミナー2025 in 白山」は例年どおり，8 月最終週の金～日（2025 年 8 月 29～31 日），石川県加賀市の加賀温泉郷ホテルアローレにて，公立松任石川中央病院 PET センターの横山邦彦大会長の下で開催されました。大会テーマは「PET の SDG」。大きく拡大した PET 診療を今後も維持していくことができるのか，若い力に参入していただくにはどうすればいいか等，現在 PET 診療の前にある問題を捉えたすばらしいテーマであったと思います。今回石川，富山，福井の 3 つの PET センターの共同開催の形を取り，北陸の力を結集したことで，極めて充実した大会に感じられました。

初日は機器メーカーによるユーザーズミーティングから始まり，その終了後開会宣言が行われましたが，それに引き続き前回の 2024 年 in 高松大会[1] の西山佳宏先生及び実行委員のメンバーが登壇され，「みんなでつないだシン・PET サマーセミナー2024」と題する報告が行われました。前回は残念ながら台風直撃のため，急遽 Web 大会に変更せざるを得ませんでしたが，そのときの，いかにしてその困難を乗り越えたかが紹介され，西山先生はじめとする開催メンバーの大変なご苦労が忍ばれると共に，その紹介を大会最初に行った横山先生の細やかな心遣いも感じられ，すばらしいスタートであったと思います。

その後，恒例のワークインプログレスで，メーカーの皆様は，例年どおり，会場からの厳しいツッコミに耐えていただきました。近年コンプライアンスの重視から，企業と現場の間の垣根がどんどん高くなっていますが，PET サマーセミナーは垣根を取り払ってお互い言うべきことは言う，企業もコミュニティの一部である，というスタンスを保っており，ワークインプログレスはその典型ではないかと思っています。今回もそれが維持できていたことを，うれしく思います。

それからイブニングセミナー，そして待ちに待った夜の学校･情報交換会と続いていきました。今回，筆者は次回の大会のための人脈作りをかねて看護系セッションに積極的に参加させていただきました。現在，核医学の世界では PET の大きな拡大と共に，核医学治療も拡大し，看護の力が今までにも増して重要となってきています。看護系夜の学校では「時代への教育と人材育成」と題し，看護の立場から核医学診療の持続可能性を論じていただき，若い力が育ちつつあるのを実感いたしました。

2 日目は朝 7：30 の会員総会 / 施設代表者会議から始まりました。今回は，かつての合宿形式であった PET サマーセミナーに回帰するという目的で，大部分の参加者が会場のホテルに宿泊しており，会員総会も朝早くから開催されましたが，朝の弱い筆者にはちょっとしんどいところもありました。

その後午前中に 2 つのセッションがあり，ランチョンセミナー，そして待望のエクスカーションと進んでいきます。筆者は看護系のセッションと，それに引き続き「次世代の先生方に送るレポートの書き方」という，若手を育てるセッションを聴講いたしました。この「レポートの書き方」セッションは，読影をレポーティングした例を提示して，それにコメンテーターの先生が赤ペンを入れていくという，非常に新しい試みでした。ただ，このセッションは，

1　2025 年 2 月号（No.797）「モニタリングポスト」
https://www.jrias.or.jp/pdf/2502_MONIPOS_MAEDA.pdf

写真 1　金沢コース エクスカーション風景

写真 2　懇親会風景

若手だけではなく，筆者にも「グサグサ」と刺さってしまいました。自分の書いているレポートのダメさ加減を実感して，再起不能になりそうでした。座長・企画者の佐藤葉子先生（藤田医科大学）と相談して，次回も開催する方向で検討しています。

皆さん楽しみのエクスカーションは 2 コース。1 つは〈金沢コース〉で伝統とアートを体感するツアー，もう 1 つは〈菊姫コース〉で有名な菊姫酒造を回ってお酒も飲めるツアーとのことでした。残念ながら筆者は参加しておりませんが，次回の実行委員長の井手口怜子先生，プログラム委員長の岩竹聡技師が〈金沢コース〉に参加され，金沢の街並みや美味しいものを楽しまれたようです（**写真 1**）。次回の長崎大会でも，皆様に楽しんでいただけるエクスカーションツアーを考えております。

そして，お楽しみの懇親会です（**写真 2**）。これがとんでもなく豪華絢爛で度肝を抜かれました。和太鼓のステージショー（DIA＋（ダイアプラス）という和太鼓集団による公演）が行われ，音とリズムで圧倒されたところに，食事として通常のケータリングに加えて，簡単には予約の取れない有名寿司店が出店され，くじ引きで数量限定でいただけるようになってました（残念ですが筆者は外れました。招待制のお店だそうで，あえて名前は書きませんが，知る人ぞ知る有名店です）。正直，次回の大会でこれだけの懇親会を行うのは大変で，えらくハードルが上がったな，と冷汗が流れましたが，参加された方数名にお聞きしましたところ，みなさま「今年は特別」と言われてましたので，ほっと胸をなで下ろしました。

最終日は，一般演題のセッションも設けられておりました。また，最後のセッションとして「Theranostics in 福島」というセッションが行われました。福島県立医科大学において推進されている Theranostic も紹介されましたが，それに加えて，福島復興の現状，復興を超える研究力形成のための F-REI 機構の紹介等が行われていました。2026 年は原発事故・東日本大震災から 15 年の節目であり，次回も取りあげようと考えています。

横山先生は今回「原点回帰」を目指したとのことで，COVID-19 パンデミック以降，どうしても face-to-face でのざっくばらんな会合が難しくなってきた現状を，昔ながらの合宿形式であった PET サマーセミナーの時代に近づけようと，大きな努力を払われておられました。参加して，それが確実に実現していたことを感じることができました。

次回の 2026 年大会は筆者と長崎大学放射線診断治療学分野の東家亮教授が共同大会長形式で，JR 長崎駅直結の出島メッセ長崎で 2026 年 8 月 28 日（金）～30 日（日）にかけて開催します。大会テーマは「The best of both world ～ PET いいとこ取り ～」としました。“The best of both world” は和訳すると「いいとこ取り」となるのですが，ニュアンスとしてはもっと積極的に「best」の結集という意味になります。今回の白山大会でハードルが大変上がってしまいましたが，全国の「best」の PET 関係者の皆様に満足いただけるように頑張りたいと思います。スタッフ一同，長崎でお待ちしております。

（長崎大学　原爆後障害医療研究所　アイソトープ診断治療学分野）